

主

主は、で、燭台にあかりのついている象形です。あかりは家の中心に置かれるので「中心」の意味に使われます。キリスト教では、中心の意味でキリストを指して使います。部首としては「中心に向かって集まる」「集中する」の意味に多く使われています。

音は、火のシュウシュウと燃える音を取って「シュウ」ですが、つづめて「シュ」と読む方が多いようです。主人(一家の中心となる人)の意味。主従、主客(従に対するもの、客に対するものとしても使います)。

柱は、“家の中心となる木”の意味で“はしら”です。大黒柱、支柱。“ささえ”の意味にも使われます。

注は、川の水が、中心である海に向かって“そそぐ”意味です。この主は“集中”の意味に使われています。「注目」「注意」は、目や心をそれぞれある点に集中させることです。

住は、人が集中するの意味で、それは、人が都会に集まりすむことを表わしています。居住、住民。

駐は、馬が集中するのは“軍隊が滞在する”場合です。だから“軍隊がある場所に止まる”という意味に使われます。駐屯。

また、役人が任地に止まる意味にも転じて使われます。「アメリカ駐在大使」。

駐を“馬を止める”の義として、今では、転じて、車を止めることにも使われます。駐車。

註は、言葉を集中させるの意味で、むずかしい言葉に対して“説明を加える”ことを表わしています。註釈、註解。“言葉を注ぐ”の意味です。だから注釈、注解とも使われています。